

8. 木の器

息子夫婦むすこふうふの家に引っ越こしてきたおじいさん。おじいさんは力ちからが弱よわくて目が悪いので、よく料理をこぼしてしまいます。息子夫婦むすこふうふは、そんなおじいさんの失敗しっぱいが許ゆるせません。彼らはおじいさんにひどいことをしますが、それを見ていた孫は・・・。

愛する妻つまを亡くしたおじいさんがいました。おばあさんが亡くなって、おじいさんは息子むすこのジェームスとその妻つまのイザベライザベラの家に引っ越こすことになりました。息子夫婦むすこふうふの家には、もうすぐ小学生になる孫のトニーも住んでいました。

息子夫婦むすこふうふは、おじいさんのことをあまり良く思っていないでした。なぜなら、おじいさんは力ちからが弱よわくて目が悪いので、食事の時によく料理をこぼしてしまうからです。おじいさんが料理をこぼすと、彼らはいつも大きなため息をつきました。おじいさんはそれを聞くたびに、悲しい気持ちになりました。

ある日のことです。おじいさんは、牛乳ぎゅうにゅうの入ったグラスを倒たおして、洗ったばかりのテーブルクロスを汚してしまいました。

「もう我慢がまんできない!どうして毎日毎日そんなに料理をこぼすの!テーブルクロスがいくつあっても足りないじゃない!」

イザベラが大きい声で言いました。そして次の日から、おじいさんは家族と別の小さなテーブルで、一人でご飯を食べさせられました。しかも、おじいさんのテーブルには、テーブルクロスの代わりに新聞紙しんぶんしが敷しかれていました。

その数日後。

「ガシャンッ!」

お皿さらが割れる、嫌いやな音がしました。おじいさんが、スープのお皿さらを床ゆかに落おとしてしまったのです。イザベラは怒って、また大きい声で言いました。

「明日からは、割れない食器^{しょつき}に変えますから!」

次の日から、おじいさんは木の食器^{しょつき}を使うことになりました。家族が楽しそうに話しながら食事をする部屋^{へや すみ}の隅で、おじいさんは一人で寂しく、ざらざらした木の食器^{しょつき}で食事をしました。孫のトニーは、そんなおじいさんの様子をじっと見ていました。

それからしばらくたったある日、夕食前にトニーが熱心^{ねっしん}に木で何かを作っていました。

「トニー、何をしてるんだ?」とジェームスが尋ね^{たず}ました。

「お父さんとお母さんのために、食器^{しょつき}を作ってるんだよ」とトニーが答えました。

「お父さんとお母さんの食器^{しょつき}?」

「そうだよ。だって、お父さんとお母さんが年を取って料理をこぼしたら、使わなきゃならないから。あ、それに新聞紙^{しんぶんし}も必要だね」

トニーの言葉に、ジェームスとイザベラは何も言えませんでした。

二人は、自分たちがどんなにひどいことをしていたか、ようやく分かりました。その日から、おじいさんはまた家族と一緒に食事をするようになりました。そして、おじいさんが料理をこぼしても、誰も何も言わなくなりました。

単語リスト：

息子夫婦（むすこふうふ） Vợ chồng con trai
亡くす（なくす） Mất đi
ため息をつく（ためいきをつく） Thở dài
テーブルクロス Khăn trải bàn
我慢（がまん） Chịu đựng, nhẫn nại

新聞紙（しんぶんし） Giấy báo
食器（しょつき） Bộ đồ ăn
様子（ようす） Tình trạng
こぼす Làm tràn, làm đổ
ようやく Cuối cùng